

Hop Step Jump

10

小学校授業づくり⑤

大教大附属池田小学校での 授業づくり研修を振り返って

8 月 28 日の初任研第 9 回は、大阪教育大附属池田小学校の授業見学＋研究協議。今回は国語(1・3・5 年)と算数(2・3・5 年)の授業から各 1 時間を選択し行いました。夏休み明けすぐにもかかわらず、子どもたちの学びのポテンシャルの高さにはいつも驚かされます。

子どもたちがのびのび、いきいきと想像やイメージ(動き)を考えるために、つぶやきや発言を自由にさせることも大切なのだなあ、と感じました。私のクラスは、控え目な大人しい子どもが多いからか、発言が少な目になっています。「そっかあ」という先生の相づち一つ一つが、子どもたちの安心につながっているなあと感じました。ペアやグループでの話し合いは色々な意見に触れる良い機会だと思いました。一人でだまってイメージ、想像する時間もあつたら、落ち着きが出るかなあとも思いました。(1 年国語)

仲間のつぶやきや発言を『聴き』ながら、自分の考えが深まったり修正されたり、変化します。正しく整った答えよりも、驚いた時や迷った時、困った時のつぶやきや、あと一步でゴールそんな時に勇気を出して、たどたどしく発した言葉が、子どもたちの学びを劇的にジャンプさせることがあります。なぜなら、それこそが子どもたち自身が発する問いであり、『学び』だからです。

何を教たいのかを明確に持っているからこそ、「ふかめる」場面で、子どもに話し合わせることができるんだなと実感しました。メッセージは何を伝えたいのか、ということについて先生の核心のつきかた、持っていく方がとてもすごくて感心しました。子どもが集中して考えている姿にもすごいなと思いました。(3 年国語)

国語の説明文で、どんな力をつけたいのか(自分が文を書く為の技術を)が、すごくはっきりしていて自分も行いたいと思いました。身につける、そして、それを活用するパフォーマンス課題も取り入れたい。(5 年国語)

実際の授業では、子どもたちがどう学んでいるのかに注目することが重要です。先生の仕事は、その学びをデザインすること。教科書や資料をどう使い、仲間と協働していかに深まっていくのか。その見通しが目標です。でも、子どもたちは時に予想を大きく上回り、その力に感動することもあります。

かこむ、点と点を結ぶ、直線である等の三角形・四角形の定義を子どもたちが自ら気づく場面がたくさんある授業でした。題名をつけさせることから、子ども自身も思考整理ができるので良いなと思いました(2 年算数)

先生の活動より子どもの活動時間の方が圧倒的に多くとられており、みんながイキイキしていた。「前のめりの授業」という言葉が刺激になった。(3 年算数)

偶数奇数をドットの数で表して、並べ方等も考え方、整理の仕方として取り入れていることにおどろきました。ICT も、活用の手本を見ているようでした。自分の授業でも、今日学ばせて頂いたことを取り入れたいと思います。(5 年算数)

私も授業研究会に参加した際、うまくまとめられなかったり、恥ずかしくて発言できないこともしばしば。そんな時に小グループなら随分と楽に発言することができます。お互いの言葉を聴き合う中で、新たな知見にたどりついたり、仲間に言葉を補ってもらいながら、自分の言葉が完成したりします。これが言語活動なのではないかと考えます。

学びが成立している授業を見ていると、子どもたちの学びの姿と、私たちの学びの姿に、それほど差がないように思えてきます。子どもたちは大人以上に学び上手かもしれません。その力を引き出すためにも、聴き合う関係で結びついた、誰からもバカにされることのない安心・安全な教室を実現する必要があります。

しかし、改めて授業づくりというのは様々な要素が絡み合い、とても難しい仕事だと思います。また同時に、とても豊かな営みだと思います。それ故に、授業の専門家である私たちは研究し続けなければなりません。

授業づくりの難しさや素晴らしさを互いに共有し合い、大いに語り合って、子どもたちがイキイキと学ぶ授業を実現したいものです。